

**注意！**

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

# 農作物技術情報 第2号 野菜

発行日 平成23年 4月26日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri//>」

- ◆施設果菜類は保温に努めますが、日中の急激な温度変化に注意しましょう
- ◆余震が続いていますので、補助暖房器具を使用する場合は転倒による火災を引き起こさないよう十分注意し、停電復旧後は機械の保守点検を行いましょ
- ◆露地葉根菜類は土壌が適度に湿った状態で早めに圃場を準備し、天候回復を待って播種や定植を行いましょ
- ◆雨よけほうれんそうは、ムラのない十分なかん水で生育を揃えましょ

## 1 生育概況

- (1) 地震に伴う停電や低温が続いた影響から施設果菜苗の生育がやや遅れており、既に定植を終えた施設果菜類についても加温作型、無加温作型ともに低温の影響により例年に比べ生育がやや遅れています。露地果菜類は現在育苗中ですが、生育はやや遅れ気味です。
- (2) 春レタスの定植は3月下旬から行われていますが、生育は低温の影響でやや遅れています。高冷地レタスは雪解けが遅かったことなどから圃場準備に遅れがみられます。ねぎ、キャベツは一部定植が始まっていますが、作業の進捗は例年より遅れる傾向にあります。
- (3) 雨よけほうれんそうは概ね順調には種が行われていますが、低温傾向で経過したことから生育はやや遅れ気味です。また、一部でケナガコナダニの発生が見られます。

## 2 技術対策

### (1) 施設果菜類の管理

これからの時期は天気の変化が激しく、温度管理の難しい時期といえます。

1ヶ月予報では、4月中は低温傾向が続くものの、5月以降は平年並との予報が出されています。気象情報を参考にし、天候に応じた温度管理を心がけてください。特に定植間もない圃場では、初期生育を良好に保つため、保温管理に注意しましょう。夜間は内張カーテン、トンネル被覆により、明け方の冷え込み等による生育停滞や低温障害を起こさないよう保温に努めます。明け方の冷え込みが予想されるときは、夕方早めにハウスを閉めるとともに、保温マットやべたがけ資材のほか、必要に応じて補助暖房等を活用し最低気温の確保を図ります。この場合、きゅうりで12℃、トマトで10℃、ピーマンで17℃、いちごで8℃程度の温度確保を目標とします。

一方、日中の最高気温が30℃を越えないよう、こまめな換気に努めることも重要です。

施設内が乾燥しているなど灌水の必要がある場合には、日中の温度が高い時間帯に行い、適湿を保つようにします。特に半促成きゅうりでは空中湿度の低下を防ぎ側枝の発生を促すために、主枝を摘心する頃から通路かん水も必要となります。

## (2) 霜害の回避と事後対策

この時期に定植する葉菜類は、一般に低温に強く、霜害の心配は少ないですが、定植から活着までの間に強い霜にあたると被害を受ける場合もあります。気象情報を参考にして、定植直後に強い霜が予想される場合には、定植時期をずらし、被害を回避します。

アスパラガスの萌芽も徐々に始まってきます。降霜により被害を受けた場合は被害茎を早めに取り除き株の消耗を軽減するとともに、次の若茎の萌芽を促進しましょう。

## (3) 露地葉菜類の適期定植とべたがけ資材除去

定植適期の苗を定植するためには、計画的に圃場準備を進める必要があります。土壤水分が適切な状態でマルチフィルムを張ることが理想ですので、乾燥時にはスプリンクラーなどで散水するか降雨を待って圃場準備を行いましょう。

4月中に定植するレタス、キャベツについては風のない温暖な日に定植を行ってください。低温が予想される状況でやむを得ず作業を行う場合には、べたがけ資材を利用し、植え傷みの防止、凍霜害の軽減を図りましょう。ただし、べたがけ資材の除去が遅れると高温による変形球発生などの障害が見られますので、表1を目安に除去します。

表1 べたがけ資材除去の目安

	べたがけ資材の除去時期	備 考
レタス	半旬（5日間）の最高気温の平均が16℃以上になったら除去する。ただし、これ以下の気温でも結球を開始したら除去する。	PP（パオパオ等）、PE（パスライト等）は、べたがけ下の温度が上がりやすいので被覆除去を早めにする。
キャベツ	結球開始期に除去する。ただし、18℃以上の最高気温が継続する場合には除去する。	

## (4) 雨よけほうれんそう

風が強いなど乾燥条件が続くと、予想以上に圃場が乾燥している場合があります。は種時のかん水は十分量行い、生育のムラや萎れが生じないようにしましょう。

ホウレンソウケナガコナダニによる被害は、本年度も既に一部で見られています。未熟な有機物（モミガラなど）の施用は避けるとともに、例年発生が多く見られる圃場では、本葉展開期から中心葉に葉液がよくかかるように効果のある殺虫剤を十分量散布します。被害が見られた株は必ず抜き取り、ハウスから離れた場所で処分しましょう。

萎凋病の発生が懸念される圃場で、土壌くん蒸剤による消毒を予定している場合は、計画的に作業できるように資材等の準備をしておきましょう。

**春の農作業安全月間実施中！** [ 4月15日 ]  
[ ~6月15日 ]

農作業 無事故でつなぐ 明るい未来

次号は5月26日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。